石川県七尾美術館だより

平成18年7月1日発行
編集・発行　石川県七尾美術館

第46号（夏号）

「岡本太郎展
－芸術に挑んだ親子・かの子、一平、太郎。－」より
「森の掟」（1950）

岡本太郎（1911～96）
川崎市岡本太郎美術館蔵
縦181.0　横259.5（cm）

ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM

展覧会紹介

平成18年7月1日（土）～9月18日（日）

休館日については裏表紙をご覧ください

「岡本太郎展
―芸術に挑んだ親子・かの子、一平、太郎。―」

8月4日（金）～9月18日（月・祝）
［会期中無休］

◇ 第一・第二・三展示室

〝芸術は爆発だ〟の名言で知られる岡本太郎（一九一一―九六）は、戦後の芸術界や日本社会のみならず、世界に向けてエネルギッシュな創作活動を展開した日本を代表する芸術家です。その活動は絵画・彫刻・染色・陶芸・デザイン・写真・評論など多岐に渡り、あらゆるジャンルで革新的な業績を残しました。

今年は、太郎の没後十年という節目の年です。メキシコで発見され、日本での修復作業を終えた壁画「明日の神話」が、七月八日から八月末まで東京で一般公開されるなど、全国的にも機運が高まってきています。

本展では、改めて太郎芸術を紹介すると共に、父で漫画家の一平と母で歌人・小説家であったかの子に関する資料もあわせて約一八〇点を展示します。

また、会期中は親子で楽しめるような催しも予定しています。今なお強烈な存在感でエネルギーを放出し、各ジャンルの芸術家や若者たちに影響を与え続ける岡本太郎とその芸術を、是非この節目の年にご堪能ください。

《かの子・一平資料》

「岡本太郎は、この親にして生まれた」とも言われる。漫画家であり、イラストレーター、デザイナーとしても幅広く活躍した父・一平。歌人、小説家として活躍した母・かの子。その二人が太郎に与えた影響は、決して少なくはない。

太郎は生前「私が今考えて父母に感謝することがあるとすれば、父も、母も、世間一般の親としてはまったく落第だったが、常に対等な友人のように、人間同士として扱ってくれたことである」（『一平かの子』チクマ秀版社）と語っている。この親子の関係は、凡人には簡単に理解できるものではなかったが、目には見えない強い絆で結ばれていたのである。

生前、かの子のファッションは悪評だった。しかし、それらは何か、かの子独特の美意識によって貫かれている。一方、書家・版下作りの名人で、北大路魯山人が弟子入りしたことでも知られる岡本可亭を父に持つ一平は、記者時代にユニークな風刺漫画を描き、軸物なども独自の味わいがある。

妥協せず、型にはまることなくお互いに対等に歩み続けた芸術家・かの子と一平の一端を、一部の資料を通してご覧いただければと思う。

① 「黒地紋付松文袷長」個人蔵

② 「一平かの子書画巻」（部分）一平かの子合作 個人蔵

【太郎・パリ時代】

昭和四年（一九二九）、一平の海軍軍縮会議の取材の折、かの子の「どうせ絵の修行なら本場のパリで」という一言で、かの子と共に太郎も同行することになる。しばらくして、ロンドンへ向かう両親と別れ一人パリに残った。そのパリ時代は、多くの日本人作家たちとは異なり、ただの物まねに終わることはなかった。語学はもちろん、歴史、唱歌まで勉強し、パリ大学では民族学まで修得したのである。

ピカソの抽象絵画に衝撃を受けた太郎は、二十二歳でアルプやカンディンスキーらが活動する純粋抽象組織「アブストラクシオン・クレアシオン」に参加する。ただ、それに満足する太郎ではなかった。さらに具象と抽象が絡み合った独自の世界を生み出していくことになるのである。

【帰国・国内での活動】

《絵　画》

パリ時代、エルンストやブルトンに賞賛された『傷ましき腕』や『空間』などは、日本に持ち帰った後戦災ですべて焼失した。しかし、読売新聞の美術記者・海藤日出男の要請で、この二点を含む四点が新たに制作され蘇ったのである。

③ 「空間」（1934／54、再制作）

二科展にも出品、「対極主義」を打ち出す一方で、挑戦的な発言で異端児扱いされながらも、決して屈することはなかった。

昭和二十五年に制作した『森の掟』は、彼の意識、思想が強く表れた代表作の一つである（本冊子表紙『森の掟』）。その後も、己の内から沸きあがってくるものを、時には傷跡を付けるように、時には抽象と具象を絡み合わせながら描き続けたのである。

④「ドラマ」（1958）

《彫刻・工芸・インダストリアルデザイン》

岡本太郎は、画家としてよりも立体造形作家として認識されているかも知れない。

大阪万博で観衆を驚嘆させた『太陽の塔』の圧倒的な存在感は、現在も人々の心体に深く刻み込まれているに違いない。

頭に線香を挿し、笑ったような顔が楽しい父・一平の墓碑『顔』、一方、天に向かって伸びた母・かの子の文学碑『誇り』は、まさに誇り高き作品である。何れにも、太郎の思い、深き愛が感じられる。彼の彫刻や工芸は、力強くもあり、実は極めてデリケートな作品と言えるであろう。

太郎は、インダストリアルデザインも手掛けている。顔の時計、手の椅子、マスクなど様々である。中でも『坐ることを拒否する椅子』は挑発的で、その一つ一つが自ら棘の道を進み、安住を望まなかった太郎自身のようにも見えてはこないだろうか。

⑤「太陽の塔」（1970）

《写　真》

ジャンルにこだわることなく、見たいものを見、触りたいものを触り、やりたいことをやり続けた岡本太郎。日本を再発見するため時間を惜しまず、全国を駆け回った。

一般にはあまり知られていないが、太郎はパリ時代、マン・レイに写真を学び、ブラッサイとは親友だったという。

その目は、人間の一瞬の表情を見逃すことなく的確に捉え、そればかりか空気や感情、すなわちその人間の内面までも浮き彫りにしているのには驚嘆する。

また、東京国立博物館で〝縄文土器〟を見た太郎は衝撃を受け、その造形と発せられるエネルギーを写真におさめた。彼にとって縄文土器は、魂を揺さぶられる衝撃的な発見であったのだ。

※③～⑧は川崎市岡本太郎美術館蔵

⑦「縄文人」（1982）

⑥「坐ることを拒否する椅子」（1963）

⑧「縄文土器」（富山県氷見出土／1956）

◇観　覧　料

	個人	団体
一般	800円	700円
大高生	350円	300円

※中学生以下無料・団体は二十名以上です。

〈岡本太郎展耳より情報〉

太郎ファンのために撮影コーナーもあるよ!!

★【特別講演会】

〈日　時〉8／20（日）午後2時～
〈演　題〉「岡本太郎の仕事と人となり」
〈講　師〉村田慶之輔（川崎市岡本太郎美術館館長）
〈会　場〉当館アートホール（聴講無料）

★【特別映画上映会】

〈日　時〉9／3（日）午後2時～3時30分
〈タイトル〉「宇宙人東京に現わる」（大映／一九五六年）
〈会　場〉当館アートホール（入場無料）
（先着順、当日正午より整理券を発行します）

太郎が色彩指導し、「パイラ人」のデザインを手掛けた、日本初のカラーSF映画は必見！

★【知っ㊥太郎＆クイズ】

子ども向けの簡単な鑑賞の手引き「知っ㊥太郎」とクイズ（小・中学校児童生徒対象）を用意。クイズ全問正解者の中から抽選で、太郎グッズなどをプレゼント！

©角川ヘラルド映画

★【全国のタロウさん集まれ！】

名前の読み方が「タロウ」の方は観覧無料！さらに、同伴の方は団体料金に割引になります。

※お名前を証明できるものをお持ちください。

★【期間限定販売！岡本太郎グッズ】

ミュージアムショップにて、岡本太郎作品をモチーフにしたピンバッジやTシャツなどの様々なグッズを販売します。

★【喫茶室では特別メニューが！】

正面入口横の喫茶室では岡本太郎のイメージで特別メニューを考案中！お楽しみに♪

第65回七尾港まつり協賛

「池田コレクション選抜展」

7月1日（土）～30日（日）

◇ 第一・第二展示室

「池田コレクション」は七尾市出身で岐阜県大垣市を拠点に活躍した経済人である、七尾市名誉市民の池田文夫氏（一九〇七～八七）が、美術に対する高い見識と深い愛着によって蒐集した日本美術のコレクションです。

池田文夫氏没後の昭和六十三年から平成十七年にかけて、ご遺族より七尾市に対して計一七〇点の作品が寄附され、現在のコレクションが構成されました。

「池田コレクション」は当館所蔵品の中核として、開館以降「所蔵品展」などで公開してきました。

本展ではその中から工芸・日本画・彫刻を中心に、各作品計七十三点を幅広く紹介します。

池田文夫氏が掌中の珠として愛蔵した名品をぜひご覧ください。

扁額「對松軒」 北大路魯山人

「堆漆菊文香合」 音丸耕堂

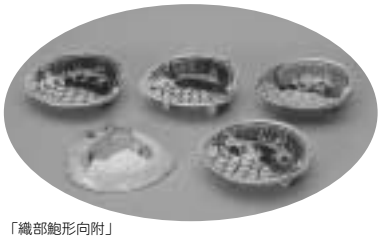
◆工芸

「池田コレクション」の内容は池田文夫氏が活躍した岐阜県美濃地方ゆかりの陶磁器が中心で、特に「美濃焼」と呼ばれる「志野」や「織部」などが多く含まれています。これらのやきものは、今から約四〇〇年程昔の桃山時代から江戸時代前期にかけて制作されていますが、そのデザインは非常に奇抜なものが多く、現在の私たちが見ても斬新な印象を受けます。そこからは自由な雰囲気の中で生きた桃山時代の人々の姿が見えてくる様です。

ここでは「志野」「織部」をはじめ、楽焼や九谷焼など様々なやきものを展示予定です。

また、漆工や金工、竹工など様々な工芸品を加えて、計三十五点を紹介します。

「絵唐津手付水注」



「織部鮑形向附」

「色絵山水図平鉢 吉田屋窯」

「白釉太白麒麟像」 十二代酒井田柿右衛門

◆絵画

「池田コレクション」のもう一つの特色として、近現代に活躍した日本画家の作品や、江戸時代中後期に制作された「肉筆浮世絵」があります。

「肉筆浮世絵」は絵師が直接絵筆により一点一点描いて彩色する浮世絵です。大量生産が可能な版画の浮世絵に対して、肉筆画は制作に手間がかかり高価な事から、高級浮世絵として「本画」と呼ばれました。後に版画技術の発達により鮮やかな「錦絵」が制作されますが、やはり肉筆画には適わず、版画が一般に普及した後も肉筆画は描かれ続け、主に上流階級の人々に好まれました。

今回は「肉筆浮世絵」や近現代作家の軸装日本画、書など計二十九点を幅広く紹介します。

「渓橋雨後図」 川合玉堂

「維摩居士図」 狩野芳崖

「美人図」 月岡雪鼎

◇彫刻

近現代作家による木彫作品が中心です。

出品作品中、『木彫太公望』は岩の上に座り釣糸を垂れる太公望の姿を木彫で表し、全面に鮮やかな色彩が細かく丁寧に着色されています。本作品は平櫛田中（一八七二～一九八九）が八十九歳の時に制作した作品で、鋭い彫りなどからは、老いを感じさせない力強さを感じさせます。

本作品をあわせ、計九点の彫刻作品を紹介します。

「木彫太公望」
平櫛田中

「木彫金鶏鳥」
吉田秀鳳

「木彫不動明王像」 澤田政廣

◇観覧料

	個人	団体
一般	350円	280円
大高生	280円	220円

※中学生以下無料・団体は二十名以上です。

「モントレー・ジャズ・フェスティバル・ポスター展」

7月25日（火）～30日（日）

◇第三展示室

「1992.Jazz Greats」 EARL NEWMAN

七尾市の姉妹都市であるモントレー市（米・カリフォルニア州）は「世界3大ジャズフェスティバル」の開催地として知られています。

7月29日（土）七尾マリンパークで開催される「モントレー・ジャズ・フェスティバル（MJF）in能登2006」にあわせ、平成8年にモントレー市より七尾市・和倉温泉観光協会・和倉温泉旅館協同組合に友好の記念として贈られたMJFポスターを選抜し、展示・紹介します。

EARL NEWMANがリトグラフで制作し、初刷りが米国ワシントンのスミソニアン博物館にも収められている貴重な版画ポスターなど、ジャズの世界を色鮮やかに、そして躍動的に表現した作品とともに、本場、モントレー・ジャズ・フェスティバルの40年以上にわたる歴史をこの機会に是非ご堪能ください。

※観覧料は「池田コレクション選抜展」と共通料金です。

子どもワークショップ

「岡本太郎展」を楽しもう!!　子どもアーティスト誕生VI！

①小学校高学年の部「思いを伝えよう」

日　時：8／5（土）午前10時～午後3時
持ち物：絵の具セット、使いたい画材、のり、昼食、飲み物、汚れてもいいタオル等
講　師：野中未知子氏（一陽会会員・七尾市在住）

色々な画材を使って平面作品を制作。デカルコマニーによる偶然の形から、イメージの世界を広げます。岡本太郎が思いをどのように表現しているかを探り参考にします。

②小学校低学年の部「今年の夏もねんどやねん！」

日　時：8／6（日）午前10時～午後3時
持ち物：絵の具セット、使いたい材料、昼食、飲み物、汚れてもいいタオル等
講　師：当館学芸員

「岡本太郎展」鑑賞後、美術館学芸員と楽しくふれあいながら、自分の思いを粘土で作ります。

【共通事項】
会　場：当館アートホール
参加費：400円（材料費込、当日集めます）
定　員：10名（要事前申込）

申込方法：往復はがきに必要事項を明記し「美術館ワークショップ係」まで
★住所　★氏名　★電話番号　★学校・学年
受付期間：7／7（金）～21（金）必着

※応募者多数の場合は抽選とし、結果は返信ハガキで通知いたします。※ご記入いただいた氏名等については、今回のご案内以外に使用いたしません。

市民ギャラリー展覧会案内

第11回七尾日創展

7月6日(木)～9日(日)
但し、初日は午後1時から
最終日は午後4時まで

日本画を中心とする絵画の公募展で、石川県内外から出品された作品約60点を展示します。若手からベテランの作家まで個性あふれる作品をお楽しみください。

〈入場料〉無料
〈主　催〉日創会（代表　丹羽俊夫）
〈共　催〉北國新聞社
〈後　援〉石川県・石川県教育委員会・七尾市・中能登町教育委員会・ＮＨＫ金沢放送局・北陸放送・テレビ金沢・ラジオななお
〈協　賛〉金城大学
〈連絡先〉三宅厚史　☎０７６７(77)１３６８

第65回七尾港まつり協賛 第12回七尾美術作家協会展

7月15日(土)～17日(月・祝)
但し、最終日は午後4時まで

この協会展は、七尾港まつり協賛事業として、日本画7点、洋画19点、彫塑5点、工芸9点、書30点、写真6点の計76点を全会員が出品し、広く市民に見ていただき、研鑽と高揚を目指します。

〈入場料〉無料
〈主　催〉七尾美術作家協会
〈後　援〉七尾市・七尾市教育委員会・七尾商工会議所・北國新聞社・ラジオななお・テレビ金沢・七尾市文化協会
〈連絡先〉事務局長　木本香泉　☎０７６７(52)４０１１

アートホール催し物案内

無名塾　小劇場公演

7月8日(土)　開演　午後2時

演目は「驟雨」と「モノロオグ」。どちらも舞台は昭和元年の東京。主人公達は20歳代後半から30歳代の女性です。能登演劇動とは異なる雰囲気での無名塾公演をお楽しみください。

〈入場料〉１，０００円
〈主　催〉演劇文化で賑わうまちづくり実行委員会
〈チケットのお求めは〉パトリアサービスセンター・石川県七尾美術館・サンビーム日和ヶ丘・石川県能登島ガラス美術館・能登演劇堂
〈連絡先〉(財)演劇のまち振興事業団　☎０７６７(66)２３２３

第4回石川県ＮＯＴＯピアノコンクール 課題曲公開レッスン

7月16日(日)　開演　午後1時30分

8月19日（土）20日（日）に行われるピアノコンクールの課題曲による公開レッスンです。講師に桐朋学園大学名誉教授の寺西昭子先生をお招きして、課題曲の注意点を指導していただきます。

〈入場料〉１，５００円
〈主　催〉石川県ＮＯＴＯピアノコンクール実行委員会
〈後　援〉(財)七尾市公共施設管理公社・七尾市中学校文化連盟・七尾市音楽教育研究会・能登ピアノレスナー会・㈱開進堂楽器・北國新聞社・ラジオななお
〈連絡先〉同コンクール事務局（ミヤコ音楽堂内）　☎０７６７(53)０００１

北嶺中学校フルバンド部 第25回定期演奏会

7月23日(日)　開演　午後1時30分

サクソフォン8人、パーカッション2人の10人による演奏です。少人数のため、楽譜をアレンジして、工夫しながら練習しました。独自の響きをぜひお聴きください。

〈入場料〉無料
〈後　援〉七尾市北嶺中学校ＰＴＡ
〈主催・連絡先〉七尾市北嶺中学校　☎０７６７(58)１２１３

第8回アルブルクラシックコンサート

9月10日(日)　開演　午後2時

ピアノによるコンサートで、今回はショパンの曲を中心に、他にバッハ、ドビッシー、ラフマニノフも演奏します。休日の午後のひと時を音楽を聴いて過ごしませんか。お気軽にご来場下さい。

〈入場料〉大人１，０００円
小学生以下７００円
〈主　催〉Ａｒｂｒｅ（アルブル）
〈後　援〉洗足学園魚津短期大学・北國新聞社・ラジオななお
〈連絡先〉谷　栄美　☎０７６７(53)１１２４

七尾市健老大学講座 音楽鑑賞と童謡の合唱

9月12日(火)　開演　午後1時30分

七尾市内在住の高齢者の方を対象とした講座で、ピアノとフルートによる演奏の鑑賞及びインストラクターの会の指導で参加者全員でなつかしい歌を合唱します。

〈入場料〉２００円
〈主　催〉七尾市生涯学習課
〈連絡先〉三枝　敦　☎０７６７(66)２３４３

第7回　石川県七尾美術館「友の会鑑賞の旅」のご案内

参加者大募集！

「太陽の塔」塔内見学＆今夏話題の「プラド美術館展」を鑑賞

8月4日からは、いよいよ今年度特別展の第2弾『岡本太郎展―芸術に挑んだ親子・かの子、一平、太郎。―』が始まります。情熱的な作品たちが、七尾美術館の夏をより熱く盛り上げてくれそうです♪

さて、今年の「友の会鑑賞の旅」はその『岡本太郎展』開催を記念して、みなぎる太郎パワーと圧倒的な存在感を体感すべく『太陽の塔』（万博記念公園内）の塔内見学をメインに大阪方面を訪ねます。

もうひとつの見学先は、大阪市立美術館で開館70周年記念特別展として開催される『プラド美術館展―スペインの誇り　巨匠たちの殿堂―』です。同館学芸員の方に解説していただきながら鑑賞する予定ですのでお楽しみに！皆様からのお申込みをお待ちしております。

◆日程　9／24（日）【貸切バス利用・日帰り】

◆見学予定地

万博記念公園内『太陽の塔』、大阪市立美術館『プラド美術館展』など大阪方面

◆参加費　12，000円【観覧料・昼食代込】

（友の会会員以外の方は13，000円）

◆募集定員　先着25名（対象は原則として成人）

◆お申し込み方法

参加ご希望の方は、7／8（土）以降に参加費を添えて、当館受付へお申し込み下さい。

友の会会員さんのコーナー

わたしと七尾美術館

会員No.59　村本　都（七尾市在住）

私の楽しみは、絵や彫刻を観ることです。許されるならば、時に海外の美術館を訪ねて完全燃焼の人生にしたいのが持論です。まず作品の質をとらえる目を、そして感性を磨くことを優先順位として七尾美術館の会員になりました。

七尾美術館の列品は、池田コレクションの展示、長谷川等伯の作品の数々、地元作家の作品等最高の美を感じさせてくれます。目と足を止めさせる作品が隣にも、その隣にも、又隣にも並んでいるのでサーッと通りすぎることを、一点一点の作品に許してもらえないのです。一作品の背景に隠された時間と空間と意思と情熱の強さが伝わってきて、それこそ体の中がぞくぞくしてくるのです。一つ一つが人間の精魂をこめてつくったのですと呼びかけてくるようで何時間も観ていたくなるのです。

時に昨年度の長谷川等伯の国宝『松林図屏風』には魅せられて、目からウロコが落ちました。興奮さめやらず、素直にうなずけたのです。愛好者の方々、会員の熱気で人垣ができる程、盛況であった学芸員の列品解説にも感動しましたし、特別講演会の聴講も魅力的でした。会員限定の特典も利用させてもらっているので、充実感一杯です。

そして、今年度の特別展第一弾、長谷川等伯展の〝腕切の猿伝説〟『枯木猿猴図』も同様に感動の一言でした。私的な空間で自分の内面をのぞきこんでいるような世界が凛と展開されていたのです。第二弾の『岡本太郎展』も、「芸術は爆発ダ」の発言を思い出し、期待ワクワクしております。

建物と美術が一体化し、中庭に面したミュージアムのロケーションは素晴らしく、アートホールでは講演会、映画会等の開催もあります。ティールームは語らい、憩いの場としておしゃれな雰囲気です。ハイビジョンでは長谷川等伯の作品が年代別に紹介されており、ミュージアムショップでは、展覧会図録やハガキ、グッズなどの販売もあり、ゆったりとした贅沢な空間をより楽しませてくれます。

利用者にとってサービスとなる美術館のあり方を考えつつ、広く文化交流の質を高め、愛される七尾美術館となるようご尽力下さっている職員御一同、ボランティアのみなさまに深く感謝申し上げます。

★投稿募集★　**『わたしと七尾美術館』にあなたも参加しませんか？**

次号の『石川県七尾美術館だより（秋号）』（10月１日発行）に掲載する文章を募集します。友の会会員の皆様からみた七尾美術館の魅力や印象に残った展覧会、当館にまつわる思い出などについてお寄せください。（200字～400字程度。また、写真等があればご一緒にお願いします）

原稿提出は…郵送かFAX　0767-53-6262　または

Ｅメール　nanabi@city.nanao.ishikawa.jpで！

郵送送り先：〒926－0855 石川県七尾市小丸山台1-1　石川県七尾美術館

「わたしと七尾美術館」係　まで

※住所、氏名、電話番号、会員番号を明記して上記へ送ってください。

★掲載させていただいた方には、お好きな展覧会を無料観覧できる「特別招待券」（２枚）をお送りします。

★応募多数の場合、掲載できないこともあります。また、掲載にあたっては、ご提出いただいた原稿に多少の筆削をさせていただくこともありますのでご了承ください。

★投稿は随時受付いたしますが、美術館だより(秋号)掲載分の締切は、平成１８年８月３１日（当館必着）とさせていただきます。

これからの展覧会予定

◆第１・２展示室

「秋の所蔵品展」

平成18年９月23日（土）～10月22日（日）

当館では平成７年の開館より、長谷川等伯をはじめとする能登地方にゆかりのある作家、作品の紹介を主要なテーマとして収集、展示活動を行ってきました。現在、当館には「能登ゆかりの作家作品」や「池田コレクション」など計約500点の作品が所蔵されています。

本展では所蔵品や寄託品より、２つのテーマで様々なジャンルの作品を紹介予定です。

「うずくまる女」高田博厚

◆第１・２・３展示室

「２００６イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」

平成18年11月３日（金・祝）～12月３日（日）　会期中無休

毎年ボローニャ市で開催される、世界規模の絵本原画公募展入選作品が今年もやってきます。絵本のために制作された５枚組みの原画は版画、ＣＧ、色鉛筆、コラージュ、水彩、油彩、写真など様々な技法で世界中からの応募があります。

今年は15カ国92名の個性豊かな入選作品453点に加え、2005ブラティスラヴァ世界絵本原画展でグランプリを受賞したアリレザ・ゴルドゥズィヤン（イラン）の作品を27点紹介します。

会期中には絵本づくりワークショップ「かんたん絵本を作ろうよ！」や「子どもアニメ上映会」なども行います。

「The Country Mouse and the City Mouse」クボ　アヤコ

交通案内

飛行機……能登空港より能登有料道路利用約45分
車……金沢より能登有料道路利用約１時間20分
タクシー…JR七尾駅より約５分
徒歩……JR七尾駅より約20分
市内循環バス（まりん号）…JR七尾駅より西回りに乗車約６分
ななおコミュニティバス（ぐるっと7セブン）…JR七尾駅より西コースに乗車約10分

休館日のお知らせ

（7月～9月）

◆７月　3, 10, 18, 24, 31
◆８月　1～3
◆９月　19～22, 25

◎次号・第47号（秋号）は10月１日発行予定です。

〒926-0855　石川県七尾市小丸山台１丁目１番地
TEL（0767）53-1500／FAX（0767）53-6262
http://www.city.nanao.lg.jp/nanabi/